

## くもベラボ

杉山 武志・石坂 将一・稲垣 成美・岡本 真弥・  
澤田 陽世理・近野 悠・矢本萌香（くもベラボ）

キーワード：地域創生，地域コミュニティ，創造農村，くもベマルシェ

### 1. くもベラボの経緯と概要

くもベラボは、活動開始から 9 年目を迎えた、人文地理学研究室（杉山ゼミ）を中心とした代表的プロジェクトの 1 つである。筆者の一人である杉山が創造都市／創造農村論を研究してきた経緯もあり、「ユネスコ創造都市ネットワーク」に登録されている丹波篠山市の東部地域（東部 6 地区＝日置，後川，雲部，福住，村雲，大芋）をフィールドに教育研究と実践活動を続けてきた。くもベラボの活動目的は、人口減少や高齢化が顕著になってきている地域コミュニティとそのなりわいを少しでも回復させていくために、地元の皆さんと一緒に学びあう「集い」を提供することにある。

くもベラボは、旧雲部小学校の校舎を利活用してコミュニティ経済の循環を高めようと試みる「合同会社里山工房くもべ」を中核的な連携先として、東部 6 地区全域にまで研究調査、実践活動のフィールドが広がっている。すなわち、くもベラボには、①雲部地区のこと、②丹波篠山市東部六地区全体のこと、双方のスケールでの取り組みが含まれている。②の活動は、里山工房くもべ内に事務局が置かれている「丹波篠山市東部六地区協議会」と連携して進めている。



写真 1 里山工房くもべ外観  
出所：杉山撮影

一昨年と今年の EHC 報告集で紹介した通り、近年のくもベラボでは、東部六地区協議会の新たな挑戦を後押しする活動を展開してきた。一方で 2023 年度は、丹波篠山市東部六地区協議会が提供する情報発信サイト「篠山暮人（くらうど）」とも連動させるなかで、原点である里山工房くもべと連携して、くもベマルシェの支援を手がけた。

### 2. くもベマルシェについて

くもベマルシェの概要について説明しておこう。くもベマルシェは、里山工房くもべに関わるメンバーを中心に構成された「くもベマルシェ実行委員会」が運営している。実行委員会では、里山工房くもべ 1 階の 2 年生教室に入居している K's GARDEN ～handmade studio Momo～金崎美和さんが、マルシェ代表を務めている。

くもベマルシェは、2022 年に初めて開催されて、くもベラボが参加した 2023 年 9 月 2 日は第 5 回目であった。キッチンカー、ハンドメイド雑貨、ワークショップネイルなど 40 店舗以上の出展者が集う規模のマルシェとなっている。お馴染みの里山工房くもべ Café レストランもいつものように賑わいがあり、多くの来場者の笑顔であふれていた。

くもベラボの学生チームは、新メンバーも加わって間もない 2023 年 5 月 20 日の第 4 回目のマルシェで券囲気を掴んだのち、9 月 2 日開催当日までに実行委員会の皆さんとの打ち合わせを重ねてきた。学生チームは、当日スタッフとしての役割を担うだけでなく、マルシェ出展者の方々にインタビューを行い、出展者の声を記事としてまとめて、「篠山暮人」において魅力を発信する任務も担った。キッチンカー、ハンドメイド作家、地元の城東小学校に通う小学生による「キッズフリマ」、兵庫県立篠山産業高等学校機械工学科の高校生の皆さんを取材した記事が「篠山暮人」に掲載されているので、ぜひアクセスのうえー読してもらいたい。



写真2 「篠山暮人」ホームページ  
 ※くもベマルシェの取材記事  
 は「篠山暮人」ホームペ  
 ージ内の「暮らし帖」に掲載  
 されている。



出所：丹波篠山市東部六地区協議会 提供

### 3. 活発化する多自然地域のマルシェ

さて、今年度のくもベラボが、くもベマルシェの支援を手がけた理由を簡潔に述べておきたい。

昨年の EHC 報告集でも紹介したように、2022 年 7 月に丹波篠山市東部六地区協議会主催「丹波篠山市東部六地区活性化シンポジウム」が開催された。そのパネリストに登壇していた金崎さんが東部六地区の活性化策の 1 つとして熱く語った「マルシェを実施したい」との熱い想いに共感したのがきっかけであった。おりしも、くもベラボの一員で杉山ゼミ生の一人が卒業研究で多自然地域のマルシェ研究を行い、丹波での先駆的事例に基づいて地域づくりや地域愛着を高めるためのマルシェの役割に着目していたこともあり、研究室およびくもベラボにとってホットな話題であった。

東部六地区協議会は、丹波篠山市東部 6 地区の各まちづくり協議会を母体として 2017 年に設立された任意の広域的地域運営組織である。2021 年度までは基盤づくりとして、東部 6 地区という近隣コミュニティのつながりを再発見する活動に主眼が置かれてきた<sup>2)</sup>。2022 年度からは 30 歳代～50 歳代の若手を中心とした「戦略会議」が立ち上げられ、事業計画が立案されてきた。本稿の筆者の一人で、本学客員研究員の石坂将一も戦略会議の委員として参加している。2023 年度には、東部 6 地区合同のマルシェ事業として「GO EAST! さとやマルシェ」も開催されて、石坂自身も関わった。多自然地域づくりにおいてマルシェを連動させる機運が高まっている。



写真3 くもベマルシェ後に里山工房くもべにて  
 くもベマルシェ、頑張った！

出所：くもベラボ撮影

### 4. 活動 10 年目を迎えるにあたって

くもベラボの活動を開始して 9 年を終えた。2024 年度は 10 年目を迎えて、1 つの節目の年となる。

先に結論を伝えておくと くもベラボの活動は、次年度を最終年度に考えている。何かを起こしたり、新たなつながりを結びあわせるビジョンの立案とその「集い」の提供を得意とするくもベラボの役割は（軌道にのっているという意味で）少しずつ減ってきている。雲部地区のまちづくり協議会も新しい風という意味なのだろう、新たな連携先の大学を迎えているし、丹波篠山市東部 6 地区の諸活動も順調に発展して、定着しつつある。もちろん、くもベラボの活動を終えるからといって、雲部地区や東部六地区との関係を解消するわけではなく、新たなステージを考える 1 つのステップとして捉えてもらえるならばありがたい。

人文地理学分野が提供できる地域連携活動は、成果が見えづらい、仕組みづくりがメインにある。ただ、そうした仕組みを、時間をかけてコツコツ積み上げて 10 年——丹波篠山市東部地域の地域コミュニティ回復に少しばかりの足跡を残すことができたように思える。関係各位と相談しながら、最後の 1 年を走り切りたい。

### 引用文献

- 1) 足立陽菜 (2024) : 地域愛着を高めるための交流型マルシェの役割—丹波ハピネスマーケットに見る共発性に着目して—, 兵庫県立大学環境人間学部卒業論文。
- 2) 三宅康成編著, 太田尚孝・杉山武志・北村胡桃 (2022) : 『兵庫から地方の新しい未来を探る—地域を創生する 8 つの挑戦—』神戸新聞総合出版センター。